



山口サビエル記念聖堂蔵

龍福寺蔵

C O N C E P T

出会いと絆が生む奇跡

～音楽と光が紡ぎ合う大聖堂～

日本で最初にクリスマスを祝った史実をまちの宝にして、
寛容で、きずなを大切にしたい志を受け継ごうと、
「12月、山口市はクリスマス市になる。」を合言葉に、
「クリスマス市セレモニー」「やまぐち光誕祭」を開催します。
フランシスコ・サビエルと大内義隆のきずな、そして、大切な家族や仲間とのきずなを想う、
山口のクリスマスを、今年は動画で、心ゆくまでお楽しみください。



(一社)夜景観光コンベンション・ビューロー

P R O G R A M

SCENE 1

「^あ出会い」

フランシスコ・サビエルは山口を訪れ、西国一と称される守護大名の大内義隆に2度謁見しました。
この出会いが、日本のクリスマス発祥の、奇跡の始まりです。

SCENE 2

「^{おく}贈り物」

2度目の謁見の際、サビエルはインドの初代司教と総督からの書簡とともに、
機械式時計、鉄砲、緞子、美しい結晶ガラス、鏡、眼鏡等、十三の立派な贈物を贈呈しました。

SCENE 3

「^{はん}繁^{えい}栄」

大内義隆は、サビエルの布教の願いを寛容な心で受け入れ、その翌年、山口で、日本で最初の降誕祭が祝われました。
二人の出会いによって、日本文化と西洋文化が融合し、豪華絢爛な大内文化も新たな広がりが生まれました。
山口の人々は、歴史・文化の象徴として、山口サビエル記念聖堂を愛し続けました。

SCENE 4

「^{きずな}絆」

ところが、1991年、山口サビエル記念聖堂、焼失。
しかし、聖堂を愛する人たちの絆は、落胆した気持ちを、再建への情熱に変えていきます。

SCENE 5

「^き奇^{せき}跡」

その情熱は、まちを愛する人たちの心を集め、奇跡を起こします。
1998年4月29日、山口サビエル記念聖堂は再建されました。

PRODUCE

夜景評論家

丸々もとお

5つの物語の入口はこちら

